

## 日本医学会分科会活動報告

日本移植学会理事長  
江川裕人

[分科会としての活動] 日本医学会分科会としての過去5年間の活動の自己点検

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる学会の独自の活動

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

① 免疫学的な活動では、AMED 平成 29 年度「臓器移植における抗体関連拒絶反応の新規治療法の開発に関する研究」江川班により、臓器移植における抗体関連型拒絶の予防・治療について臨床研究を通じ有効性を実証し、ガイドラインによって標準化し、保険収載によって社会実装を達成した。また、心臓、肝臓、肺、腎臓、膵臓の移植患者 1300 例の遺伝子レジストリーを構築し、急性期の有害事象と遺伝子多型の関連を報告した。令和 2 年度「遺伝子関連情報を基軸にした効率的免疫抑制管理による革新的長期管理ロジック開発」江川班では、先の遺伝子レジストリー登録症例の長期臨床情報を集積中であり、遺伝子多型の長期化管理への応用を目指している。令和 2 年度「肺移植における体外肺灌流保存 (EVLP) を用いたマージナルドナー肺の治療」伊達班では、摘出後の臓器を体外灌流保存による機能回復を試みている。今後、肝臓や腎臓へ発展させる予定である。本学会が後援している制御性 T 細胞を用いた再生医療による免疫寛容誘導の医師主導型治験を、AMED も参加して進めている。

② 新型コロナウイルス感染症により様々な領域の医療が影響を受けた。本学会は 2020 年 3 月に対策委員会を設け、指針や Q&Aなどを会員・患者に発信してきた。さらにリアルタイムに感染レジストリーや移植施設へのアンケート調査を行った。その成果を厚生労働科学特別研究事業「コロナ禍における脳死下・心停止下臓器提供経験施設の実態調査に基づく臓器提供施設の新たな体制構築に資する研究」小野班、「新型コロナウイルス感染症流行時に移植実施施設において脳死下・心停止下臓器移植医療を維持推進するための調査研究」伊藤班、「新型コロナウイルス感染下における公平公正な臓器移植医療の実現のための調査研究と提言」蔵満班の、調査報告と提言をした。さらに移植後患者における新型コロナウイルスワクチンの有効性・安全性を厚労科研ワクチン疫学研究廣田班の江川分担研究として移植後患者における新型コロナウイルスワクチンの疫学研究を進めている。

b. 当該領域における国際的な役割

移植医療は国際的ネットワークが発達しており、様々な臓器ごとのネットワーク、アジア移植学会などの地域的ネットワーク、全臓器を含むグローバルな The Transplant Society (TTS) において、本学会は人的支援と学術的活動を通じて重要な役割を担ってきた。1) WHO と連携し移植国際レジストリーへの本邦データの登録、2) IRODaT (The **International Registry on Organ Donation and Transplantation**) と連携し臓器提供ドナー国際レジストリーへの本邦データの登録、3) TTS との連携学会として国際的臨床・研究・教育活動、4) ローマ教皇科学院と連携して臓器売買臓器撲滅と国内での臓器提供推進活動などを進めている。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

「高いレベルでの標準化」をかかげて医療標準化委員会が様々なガイドラインを作成した。上記の抗体陽性診療ガイドライン、予防接種ガイドライン、免疫抑制剤 TDM ガイドライン、EBV 感染症診療ガイドラインを発売した。CMV 感染症診療ガイドラインや妊娠出産ガイドラインも近々発売予定である。また、移植学会主導の新型コロナウイルス対策により、コロナ禍で移植医療を維持し臓器不全治療に貢献した。

d. 学会運営上留意している点

患者のために最善の医療を提供することを第一の目的として、学術性と人間性を極め、議論に留まることなく、新規的医療を社会実装するために必要な方策を丁寧に実践していく。

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動

日本救急医学会、日本集中治療医学会、日本脳神経外科学会と連携して、厚生労働省研究事業（5 類型施設における効率的な臓器・組織の提供体制構築に資する研究－ドナー評価・管理と術中管理体制の新たな体制構築に向けて－（横田班）、脳死下・心停止後の臓器・組織提供における効率的な連携体制の構築に資する研究（廣崎班）として臓器提供のために必要な社会システム・医療システムの構築を進めている。

移植医療の成熟による移植後長期生存患者の著しい増加に対応するため、移植内科医育成が喫緊の課題となっている。日本内科学会、日本循環器学会、日本肝臓学会、日本腎臓学会、日本糖尿病学会、日本消化器病学会などと連携し、教育、リクルート、ハンドブックの作成を計画している。

移植医療が免疫科学発展の契機となってきた。日本免疫学会、日本再生医療学会、日本組織適合性学会（非分科会）と移植免疫、感染免疫、組織再生に関する学術的交流を進めるなかで、組織適合検査や、再生医療による免疫寛容などのトランスレーショナルリサーチを実践している。